



国際ロータリー第2800地区 1959年6月9日創立

鶴岡ロータリークラブ

例会場 東京第一ホテル鶴岡 (鶴岡市錦町2-10) 例会日 毎週火曜日 (12:30～13:30)

平成25年7月30日(火) 第2640回 例会 (本年度第4回)

8月13日(火)	お盆休会
8月20日(火)	だだちゃ豆家族例会
8月27日(火)	ゲストスピーチ 鶴岡シルク(株)代表取締役 大和匡輔氏
8月29日(木)	職業奉仕フォーラム ー国際村ー

Eメール◎tsuruoka08@rid2800.jp ホームページ◎http://www.tsuruokarc.org/

鶴岡ロータリークラブ
ホームページ



会長挨拶

嶺岸禮三君

7月24日、加藤賢さんの奥様の御母堂様の葬儀・告別式がセレモニーホール鶴岡駅前でしめやかに挙行され、参列させていただきました。闘病生活が長かったとのこと、心からご冥福をお祈り申し上げます。

7月27日、地域奉仕グループセミナーが天童ホテルで開催され、小林幹事、西川社会奉仕委員長と出席してきました。このセミナーは社会奉仕と国際奉仕の二つの委員会を一緒に開催したという内容でした。社会奉仕では、新関ガバナーが提唱している県内在住の被災者支援についての話がありました。災害復興コーディネーター千川原公彦氏の「県内避難者とロータリーの関わり方」という基調講演がありました。県内には8,359人の避難者がおられ、そのうち8割は母親と子どもである。高齢者、障がい者の状況はつかめていない。被災者の関心のもっとも高いのは、借上げ制度。26年までとなっているのでこれからの生活に不安を抱えておられる。震災から2年4か月が経過し、イベントを企画しても参加する方が少なくなっている。避難者といわれることへの抵抗がある。ロータリーとしては、ワーキンググループを作りながら支援策を考えていくことが大事というお話でした。活動紹介の中で上手なやり方だなと思ったのは天童ソロプチミストの活動でした。親子を対象とした支援活動はたくさんあるけれど、高齢者や障がいのある方に対する支援活動は多くない。高齢者は参加したくても会場に行くことができないという状況がある。そこで天童ソロプチミストでは、大型バスを借りて高齢者の方々の住まいをまわり、送迎付きの観光ツアーを実施した。皆さんに地域の観光をしてもらって避難先のことを知ってもらい、温泉に入ってもらって食事をして交流会を実施し大変喜ばれたということです。鶴岡には宮城県から78人、福島県から245人、合計329人の被災者がおられます。市内4クラブと協議して何かしらの

支援ができないか検討したいと思います。また、新地区補助金についての説明もありました。

国際奉仕はグローバル補助金についての申請状況と今年申請した5クラブ中2クラブから申請内容についての説明がありました。東根クラブからバングラディッシュのVTTチームの受入れ、山形西クラブから姉妹クラブであるドイツのクラブと共同で東日本大震災で被災した方々への心のケアプロジェクトの説明がありました。鶴岡クラブも「新モンゴル校キンラン図書館整備事業」の申請をしています。RIに提出する申請書の完成に向けて作業をしているところです。

さて、本日は先ほど紹介させていただいた石黒先生がお見えです。昨日記録を見ていたら石黒先生は鶴岡ロータリークラブ初の財団奨学生でした。二人目は18年後の昭和63年・平成元年年度の須田里恵子さんです。55年間で8名の財団奨学生をスポンサーしています。今年度からR財団の制度が全面改正され、奨学生は財団が指定する6つの重点分野の一つを専攻する必要があります。専攻がそれ以外であれば、R財団のグローバル補助金を使った援助は受けられなくなりました。代わって地区の新地区補助金を使用することはできますが、地区で使用できる金額が少ないことから地区単独の奨学生を派遣することは困難になってきています。これはGSEも同じで、私としては非常に残念に思っています。

第三回理事会報告

1. 鹿児島西ロータリークラブ

姉妹友好盟約50周年記念実行委員会

次の方々が委員に決定しました。

委員長: 樋渡美智子さん

委員: 阿部純次君、越智茂昭君、佐藤友行君、塚原初男君、丸山隆志君、菅原成規君。

2. 55周年記念式典祝賀会の日程変更

平成26年6月7日(土)→ 6月14日(土)

3. 職業奉仕フォーラム開催について

RI会長 ロンド・バートン

地区ガバナー 新関彌一郎

会長／嶺岸禮三 副会長／越智茂昭 幹事／小林健郎 会長エレクト／丸山隆志
会報委員会／嶺岸禮三・本間 厚・石田 雄・丸山隆志

事務局: 鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL (0235) 28-3375 FAX (0235) 28-3376

日 時: 8月29日(木) 18:00～20:30

場 所: 国際村

登録料: 3,000円 ※9月3日の例会に振替

幹事報告

小林健郎 君

ガバナー事務所

○ロータリーレート 1ドル 100円(8/1～)

鶴岡市青少年市民会議

○H25年鶴岡市青少年育成市民会議

会費納入のお願い

会費額: 2千円

納入時期: 7月31日

米国留学ー英語と私ー

神奈川大学 石黒敏明氏



私の教員としてのキャリアは、酒田東高校に入って英語教員に出会った時に決まった。当時の夢は、文法翻訳式の英語教育に風穴をあけ、コミュニケーション重視の英語教育

に向かい変革を起こしたいと考えていた。英語母語話者との最初の出会いは、AFSで酒田東高校に来ていたスコットさんで、彼女の英語の発音はとても衝撃的であった。さらに発音だけでなく、意思疎通が可能になるには、母語話者と直接コミュニケーションし、その能力を身につけることだと感じた。当時周りには、英語話者はいなかった。しかし、私が入学した東北学院大学には、キリスト教のアメリカ人宣教師がいた。また日本人教授の中には、フルブライトンとして留学した学者や、ハワイ大学内に留学した教員もいたので、私の言語習得にとって理想的な学習環境であった。

米国留学で経験した主なことは、人との不思議な出会いであった。1970年ハイデルベルグ大学には、東北学院大学の宗教主任の娘とハワイのキリスト教会牧師の娘が留学していた。23年後、私がハワイ大学に客員教授として研究した時、修士課程で勉強していたマーサさんや、すでに職業についていたケイさんに出会った。彼女らは、お世話になった宣教師の子供たちであった。予期しなかった時に、過去にお世話になった先生方の関係者と、深い交わりを持つことができたのは、まるで何かに導かれているように感じた。

大学入学前は、「訳読式」の英語教育に異議を覚え「英語教育に変革を!」と考えていた。しかし留学体験を通し、「コミュニケーション能力」を否定しないまでも、「文法教育の重要性」を深く認識した。基本的に英語の文法が身につけていれば、論文を読めるし、また書くこともできる。読み書きは、確かに米国人より遅いかもしれないが、勉強する習慣が形成されている人は、米国人の二、三倍の時間をかけて勉強すれば、成功する可能性があることを知った。日本での学歴がない私にも、米国での留学の成果しだいでは、桜の聖母短期大学か

ら神奈川大学への道が開ける可能性があることを知った。さらに、学生として東京大学で学ぶ機会がなかった私でも、後に、東京大学で医学部専攻の学生から文系の学生まで、約10年間英語の指導ができたことは、現在教員歴40数年目の私にとって一つの宝物となった。

1960年代、よき未来を目指し学生運動が日本中で広がっていた。過激な運動もあったが、英語教育に「変革を!」と立ち上がったクラスメートもいた。私は当初考えていた「中高での英語教育変革」には、直接参加はできなかった。しかし、神奈川大学では、留学で学んだ米国の教育の優れている点を、留学未経験の日本の学生に伝え、さらに留学を奨励してきた。また将来の英語教員を育成するプログラムに関わりながら、若きころのエネルギーな「変革精神」を忘れないで、残り少ない教員生活を過ごしているこの頃である。

私のモットー

私が実践し、大学生に奨励している英語の習得法は、自分を「英語の世界」にどっぷり漬からせ、「生きた英語をよく聞き、よく読む」ことです(Krashenのインプット仮説の実践)。私にとって「英語の世界」とは、毎日の生活で体験することのすべてをさし、特にTV英語ニュースと英字新聞は、興味深い情報源です。

次に「理解した内容を自分で表現してみる」のです。(Swainのアウトプット仮説の実践)。適切な語彙や表現がわからなくても、何とか説明的に試みる戦略をとります。これをコミュニケーション方略と呼びます。その場合、先生や先輩たちと対話していれば、より適切な語彙や表現を話し相手に教えてもらえることもあります。すなわち、自分の能力以上の作業を共同でやると可能になる場合もあります。(Vygotsky: 最近接発達領域の活用)その後、一人になった時に、先の説明よりもさらに適切な表現を調べます。その際、新たに学んだ情報と以前から知っていた情報との関連づけは記憶のためにととても重要です。新情報と旧情報を脳の神経細胞のようにどんどん連結、拡張してゆきます。そのようなイメージ図をマインド・マップと呼び、忘れてしまう少し前に、何度も振り返ってみましょう。

委員会報告

◆出席委員会

◎ゲスト

石黒敏明氏 (神奈川大学)

◎メイクされた方

藤川享胤・俣野秀樹・菅原成規・武田啓之

スマイル😊

阿蘇司朗君 石黒先生、お忙しいところご来鶴いただき有り難うございます。神奈川大学を代表して…。

加藤 亨君 先日、社内で永年勤続で表彰をいただきました。

佐藤孝子さん 石黒先生、遠い所ありがとうございました。明日からインターアクト地区外研修に行きます。

出席報告

会員数	40名
出席	26名
出席率	70.27%
前々回確定出席率	81.08%